

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 藻利 衣恵	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>本人の実力以外の諸事情により学位申請はできなかったが、学位申請論文予定であった論文集を再検討し、その加筆・修正のほか、以下の研究活動を行った。</p> <p>(1) 本学紀要『産業研究』でご指導賜った拙稿（学位申請予定だった論文集のうちの1章）を再度加筆・修正し、「株式報酬費用の未費消分に関する会計処理・再考」と題して、日本会計研究学会機関誌『会計プロGRESS』第18号（財務会計の規範・記述研究では国内トップ・ジャーナル）に投稿した。現在、再査読後が終了し掲載が仮決定されており、編集委員会の掲載最終決定の可否を待っている状況である。なお、掲載に当たっては、既存のストック・オプション会計基準に一石を投じるものと評価されている。</p> <p>(2) 学位申請予定だった論文集のうち1章を加筆・修正し、<i>Cost Recognition Under the Fair Value Model: Focusing on the Recognition of Stock-based Compensation Cost</i> と題した研究を、本年3月の <i>the International Conference on Business, Economics and Information Technology (Guam)</i> で報告予定であり、スライドほかはすでに出来上がっていたが、学内業務により渡航できなくなった。そのため、来年度の <i>the International Conference on Business, Economics and Information Technology</i>、または、再来年度の <i>Asian Pacific Conference on International Accounting Issues</i>（来年度は日本会計史学会の日程と重なっているため参加不可）で報告予定である。</p> <p>(3) 現在、Laux, V. 2015. <i>Pay Convexity, Earnings Manipulation, and Project Continuation. The Accounting Review</i> 89(6): 2233-2259.の解題を行っている。佐藤紘光先生・鈴木孝則先生編著の『会計情報のモデル分析2（仮）』に掲載に向け、近日中に原稿を提出する予定である。（契約理論を用いた分析的研究のレベルはまだ拙いものだが、中長期的に勉強していく予定である。）</p> <p>(4) 日本会計史学会スタディグループの『簿記論・会計学講義で語るべき会計史』（学会を挙げての会計史に関する教科書の分担執筆）のうち、「自己株式・ストック・オプションの会計史」部分について、12月25日の現代資本会計研究会（於名古屋大学）と、12月26日の現代監査理論研究会（於大洗）で報告し、5月末の締切に向け、現在、改訂を行っている。</p> <p>(5) 本年の日本会計史学会全国大会（2017年11月4日～5日）で、「経営者報酬制度の歴史の変遷」と題し、学会報告を行う予定である。それに先立って、5月中旬の現代資本会計研究会（於名古屋大学）での報告に向け、現在、研究を行っている。</p> <p>【教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none">● 講義：財務会計Ⅰ・Ⅱおよび上級簿記 <p>財務会計のスライドを、研究の進展にあわせて深化させた。また、上級簿記については、昨年の簿記の理論（計算構造）についてのスライドを用いつつ、具体的な取引ごとの仕訳説明部分について、その内容を深化させた。また、来年度より日商簿記検定の範囲改訂が行われるため、来年度のスライドについて、春休み中に上級簿記の授業内容を全面的に見直した。</p>	

● ゼミ

➤ 基礎演習 (2年)

基礎演習の前半部分について、昨年度はうまくいかなかった部分を見直し、基礎演習の流れがうまく進むようになった。

➤ 演習 I

昨年度に引き続き、基礎演習で習得した知識を進化させたうえで、情報収集・分析能力とプレゼンテーション作成・発表能力を向上させるべく、2グループに分かれてグループ研究を行った。その結果、日経インナー大会は予選落ちに終わったものの、その際に高レベルなプレゼンテーション作成・発表能力を獲得し、うち1人が二度目の経済学部プレゼンテーション大会で個人 MVP を受賞、また、三度目の明治学院大学・跡見学園女子大学・國學院大學とのインターゼミでは、うち1班が優勝し、1名が個人賞を受賞した。

班	インナー大会	学長杯	インターゼミ
A班	世界を惹きつける群馬へ —「群馬振興計画」—	世界を惹きつける群馬へ —「群馬振興計画」—	宝川温泉振興計画 —旅館業界の経営分析—
B班	NPO 法人会計基準の 問題点	NPO 法人会計基準の 問題点と解決策	NPO 法人会計の今後

➤ 演習 II

一期生に、一人 20,000 字以上の自由テーマの論文を作成して頂き、全員が提出と卒論発表会で報告を行った。卒業論文集は、学内で図書館に所蔵・ホームページに掲載する予定である。

2 その他の事項

- 学科選択ガイダンス プレゼンター (学科共通スライド/Intro の学科選択記事の作成も含む)
- 教職課程運営委員
- 図書館運営委員 (学生用選書/推薦図書コーナー/学習に役立つリンク集を含む)
- 高崎経済大学経済学会理事 (『高崎経済大学論集』投稿規定改定)
- 高崎経済大学生協同組合特定監事

3 次年度以降の計画・抱負

昨年度は、学位申請前後等を中心に心身の不良が続いていたが、来年度より、研究・教育・学内業務を再開する。

【研究活動】

- 1. の【研究活動】に記載した論文・研究報告の量が多いので、無事こなす。
- また、研究構想として、日本国内のストック・オプションに関する判例と、オプション・プライシング・モデルとの関係に関する研究を、本年度後半に、共同研究で進める計画がある。

【教育活動】

- 春休み中に見直したスライドにあわせ、上級簿記の内容を全面的に改訂する。
- 財務会計および上級簿記については、演習問題の内容を見直す予定である。
- 昨年度より 5 年計画で、宝川温泉の外国人旅行客増加に向けて、当ゼミ 3 年生が宝川温泉のお手伝いをしている。これを本年も継続する。また、本年度は、跡見学園女子大学・國學院大學との 3 年生のインターゼミを本学で開催予定である。
- 昨年度より開講した演習 II については、演習 II の進め方、卒論の提出方法、卒論発表会等を見直しながら進行する。